

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4332899号
(P4332899)

(45) 発行日 平成21年9月16日 (2009. 9. 16)

(24) 登録日 平成21年7月3日 (2009. 7. 3)

(51) Int. Cl.

B 6 2 J 17/04 (2006.01)

F 1

B 6 2 J 17/04

請求項の数 5 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2006-275693 (P2006-275693)	(73) 特許権者	390005430
(22) 出願日	平成18年10月6日 (2006. 10. 6)		株式会社ホンダアクセス
(65) 公開番号	特開2008-94169 (P2008-94169A)		埼玉県新座市野火止8丁目18番4号
(43) 公開日	平成20年4月24日 (2008. 4. 24)	(74) 代理人	100080089
審査請求日	平成19年7月6日 (2007. 7. 6)		弁理士 牛木 護
		(72) 発明者	河合 健児
			埼玉県新座市野火止8丁目18番4号 株
			式会社ホンダアクセス内
		(72) 発明者	池崎 昌彦
			埼玉県新座市野火止8丁目18番4号 株
			式会社ホンダアクセス内
		審査官	北村 亮

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 鞍乗り型車両の風防装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

鞍乗り型車両の前頭部に取付ける鞍乗り型車両の風防装置において、
スクリーンと、前記スクリーンを支持するステイとを備え、
前記ステイは、
一端側に前記スクリーンの前面側から前記スクリーンを支持する支持部を有し、
前記一端側に対し下方へ延びる他端側に前記鞍乗り型車両に固定する固定部を備え、
前記支持部と前記スクリーンとの間に隙間を形成し、
前記支持部の上端は前記スクリーンの上端より下方となる高さ形成される
ことを特徴とする鞍乗り型車両の風防装置。

【請求項 2】

前記ステイは、左右一対設けられ、
前記支持部が、左右方向における前記スクリーンの中心と外縁との間に配置され、
前記固定部が、バーハンドル下方に固定されることを特徴とする請求項 1 記載の鞍乗り
型車両の風防装置。

【請求項 3】

前記支持部と前記スクリーンとの間に弾性部材を設けたことを特徴とする請求項 1 又は 2
記載の鞍乗り型車両の風防装置。

【請求項 4】

前記ステイは断面形状が非円形であり、正面視において垂線に対し所定角度を有し上方へ

いくに従って外側へ傾くように固定される

ことを特徴とする請求項 1～3 のいずれか 1 項に記載の鞍乗り型車両の風防装置。

【請求項 5】

前記固定部は、前記支持部の下端から後方へ延びる部材で構成したことを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の鞍乗り型車両の風防装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、鞍乗り型車両の風防装置に関し、鞍乗り型車両の前頭部に設けられる鞍乗り型車両の風防装置に関するものである。

10

【背景技術】

【0002】

従来、この種の風防装置は、走行時において風除けとしてユーザの快適性を向上し、ヘッドランプ、メータパネルなど共に自動二輪車の前頭部に設けられている。この自動二輪車の前頭部に設けられる風防装置は、スクリーンの後面側に配置されたステイにより支持されることにより、ステイを前面側から目立たなくさせ外観性の向上を図っていた。例えば、取付具を介してフロントフォークに取り付けられる一対のサイドプレートと、両サイドプレートの上端を橋絡する車幅方向に延びるアッパープレートと、両サイドプレートの下端を連結するボトムプレートとを備えるステイが開示されている（例えば、特許文献 1）。

20

この特許文献 1 によれば、各プレートの前面にガーニッシュをねじ留めすると共に、各プレートとガーニッシュとでスクリーンを挟みつけて、スクリーンを前輪懸架装置に固定する。尚、スクリーンの前面に設けられるガーニッシュは、専ら走行時においてスクリーンに当接する空気の集風、整流を行うものである。

【特許文献 1】特許第 3 7 5 6 2 5 7 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかしながら、上記特許文献 1 においては、ステイをスクリーンの後面側に配置しているため、ステイの形状が複雑になると共に、スクリーンの後面側、すなわちメータパネルなどを配置するスペースが狭くなるという問題があった。

30

【0004】

そこで本発明は上記した問題点に鑑み、スクリーンの後面側のスペースを狭くさせることなく取り付けることのできる鞍乗り型車両の風防装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

上記目的を達成するために、請求項 1 に係る発明は、鞍乗り型車両の前頭部に取付ける鞍乗り型車両の風防装置において、スクリーンと、前記スクリーンを支持するステイとを備え、前記ステイは、一端側に前記スクリーンの前面側から前記スクリーンを支持する支持部を有し、前記一端側に対し後方へ延びる他端側に前記鞍乗り型車両に固定する固定部を備え、前記支持部と前記スクリーンとの間に隙間を形成し、前記支持部の上端は前記スクリーンの上端より下方となる高さに形成されることを特徴とする。

40

【0006】

また、請求項 2 に係る発明は、前記ステイは、左右一対設けられ、前記支持部が、左右方向における前記スクリーンの中心と外縁との間に配置され、前記固定部が、バーハンドル下方に固定されることを特徴とする。

【0007】

また、請求項 3 に係る発明は、前記支持部と前記スクリーンとの間に弾性部材を設けたことを特徴とする。

【0008】

50

また、請求項 4 に係る発明は、前記ステイは断面形状が非円形であり、正面視において垂線に対し所定角度を有し上方へいくに従って外側へ傾くように固定されることを特徴とする。

【0009】

また、請求項 5 に係る発明は、前記固定部は、前記支持部の下端から後方へ延びる部材で構成したことを特徴とする。

【発明の効果】

【0010】

本発明の請求項 1 記載の鞍乗り型車両の風防装置によれば、スクリーンの後面側のスペースを広くすることができ、ユーザに解放感を与えることができる。また、スクリーンで受けた空気の一部を円滑に左右方向へ逃すことができると共に、隙間が広いのでステイの裏面を容易に掃除することができる。

10

【0011】

また、請求項 2 に記載の鞍乗り型車両の風防装置によれば、支持部がユーザの視界に入ることが少ないので、ユーザに解放感を与え、快適性を向上することができる。

【0012】

また、請求項 3 に記載の鞍乗り型車両の風防装置によれば、エンジン振動の多い V 型エンジンを持つ車両の場合でも、ステイとウィンドシールドとが弾性部材を介して接触することとしたので、ノイズの発生を抑制することができる。

【0013】

20

また、請求項 4 に記載の鞍乗り型車両の風防装置によれば、スクリーン前面に整流効果が強く得られ、スクリーン後方への空気の流れが上方に押上げられるのでウィンドシールド効果を高めることができる。

【0014】

また、請求項 5 に記載の鞍乗り型車両の風防装置によれば、ステイを鞍乗り型車両に固定する固定部を外観から目立たなくすることができるので、外観性を向上することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0015】

以下図面を参照して、本発明の好適な実施形態について説明する。

30

【0016】

図 1 に示す鞍乗り型車両の風防装置（以下、風防装置）1 は、鞍乗り型車両（以下、車両という）2 の前頭部に設けられたスクリーン 3 と、該スクリーン 3 を取付固定するステイ 4 とを備え、走行時において多くの風がユーザの頭を越えるようにすることができ、ユーザの快適性を向上し得るように構成されている。車両 2 の前頭部には、ヘッドランプ 5、メータパネル（図示しない）を備えるハンドルカバー 6、前記ハンドルカバー 6 から突出したバーハンドル 7、該バーハンドル 7 の両端の前方を覆うナックルガード 8、前記バーハンドル 7 に固定したサイドミラー 9 が設けられており、前記ハンドルカバー 6 の上方に前記スクリーン 3 が配置される。

【0017】

40

このように構成された前記車両 2 の前頭部において、スクリーン 3 は、ハンドルカバー 6 の前面にヘッドランプ 5 を挟んで左右に配置された一対のステイ 4 により、前面側から支持されている。ステイ 4 をハンドルカバー 6 の前面に配置し、スクリーン 3 の前面側から支持することとしたことにより、前頭部のシート 10 側のスペースが狭くなることがないので、ユーザに解放感を与えることができる。尚、ステイ 4 は、ハンドルカバー 6 との間に隙間を形成して、取り付けられる。

【0018】

また、スクリーン 3 は、樹脂材料で形成された透明の板部材からなり、鞍形状に成形され、左右対称形状を有している。このスクリーン 3 とステイ 4 とは、グロメット 11 を介して固定することにより、スクリーン 3 とステイ 4 との間に隙間 A1 が形成される。これにより

50

、スクリーン3に当接した空気が、前記隙間A1から通り抜けることができる。また、スクリーン3は、ハンドルカバー6の上面との間にも隙間A2を形成し得るように設置される。また、グロメット11は弾性体を用いることができ、例えば、弾性を有するゴム材料からなるゴムダンパーとしてもよい。

【0019】

図2に示すように、ステイ4は、樹脂材料で形成された略鉛直方向に延びる一端と略水平方向に延びる他端とからなるL字形部材で構成され、一端側に前記スクリーン3の前面側から前記スクリーン3を支持する支持部15を有する。支持部15は、スクリーン3の下端から上方に向かって延び、スクリーン3にボルト止めされる。また、ステイ4は、前記一端側に対し後方へ延びる他端側に前記車両2に固定する固定部16を備える。固定部16は、支持部15の下端から後方に向かって延びる部材で構成され、バーハンドル7にボルトで固定される。また、支持部15と固定部16との接続部分は、湾曲状であって、支持部15と固定部16とは、一体的に形成される。

10

【0020】

このステイ4は、樹脂材料で形成されていることにより、断面形状を円形状、非円形状など自由に選定することができる、本実施形態では、整流効果を向上するため、非円形、例えば矩形状とすることが好ましい。また、ステイ4の表面側、すなわち車両2に設置された場合の前面側は、美感を与え得る表面処理が施されるのが好ましい。一方、ステイ4の裏面側、すなわち車両2に設置された場合の後面側は、突条22が複数、縦横に形成されており、これにより、ステイ4の強度を向上することができる。

20

【0021】

ナックルガード8は、バーハンドル7を握るユーザの手を覆うように、スクリーン3と別体として設けられており、ステイ4の固定部16近傍に固定されると共に、上端においてスクリーン3に連結されている。このナックルガード8は、上端においてスクリーン3と連結するためのボルトBを挿通する穴を穿設した当接部分17と、前記当接部分17より下方に形成されたミラー取付用ステイ18との連結用穴19と、下端においてステイ4と固定するための固定穴20とが設けられている。

【0022】

また、ミラー取付用ステイ18は、中央にサイドミラー9の雄ネジが挿通する支持穴21が設けられており、ステイ4の略中央とナックルガード8との間に橋架され、ステイ4及びナックルガード8に固定される。

30

【0023】

図3に示すように、バーハンドル7は、中央において車体前端に一体に設けられたヘッドパイプに軸支される軸25の上端に接続されてなり、両端にグリップ部26を備える。このバーハンドル7と軸25との接続部分の近傍に、ステイ4の他端に形成された固定部16を固定する取付部27が、軸25を挟んで左右に一对設けられている。取付部27は、バーハンドル7に溶接により固定される支持杆28と、該支持杆28に溶接により固定されたブラケット29とからなる。支持杆28はL字形に形成され、一端が前方に突出するように、他端をバーハンドル7の下方に固定する。そして、このバーハンドル7の下方に固定された支持杆28の外側面には、ブラケット29が固定されている。前記ブラケット29は、両端を直角に立上形成した枠部30と、該枠部30に挟まれた平坦部31とからなり、平坦部31には、ステイ4の他端を固定するボルトBを挿通するための穴（図示しない）が穿設され、該穴を塞ぐようにボルトBが螺合するナットNが予め固定されている。

40

【0024】

図4に示すように、スクリーン3は、平面視において前方Fへ向かって凸となる湾曲形状を有している。また、ステイ4は、平面視において前方Fへ凸となるリブ35を備えている。このリブ35は、支持部15のほぼ全長に亘って形成されている。スクリーン3の表面は、高さ方向の略中央において、前方Fへの突出高さがステイ4のリブ35高さよりH1だけ低くなるように形成されている。

【0025】

50

図5に示すように、ステイ4は、前記支持部15が、左右方向における前記スクリーン3の中心Iと外縁との中間に配置され、支持部15に設けたボルト挿通穴40に取り付けボルトBを挿通しスクリーン3と固定する。正面視において、支持部15は、垂線Iに対し角度 α を有し、上方へいくに従ってV字状に外側へ傾くように固定される。これにより、支持部15は、スクリーン3の幅方向の外縁からスクリーン3の幅の $1/4$ の長さの範囲に配置される。このように構成したことにより、ステイ4は、支持部15に設けたボルト挿通穴40を、スクリーン3の幅方向の外縁からスクリーン3の幅の $1/4$ の長さの範囲に配置することができる。これにより、スクリーン3前面に整流効果が強く得られ、スクリーン3後方への空気の流れが上方に押上げられるのでユーザのウィンドシールド効果を高めることができる。本実施の形態では、スクリーン3の中心Iから支持部15までの長さL1より、支持部15からスクリーン3の外縁までの長さL2の方が短くなるように形成されている。

10

【0026】

また、ステイ4は、支持部15の上端の位置がスクリーン3の高さの半分以下となる長さに形成される。すなわち、ステイ4は、スクリーン3の下端から支持部15上端までの長さH2が、支持部15上端からスクリーン3の上端までの長さH3より短くなるように形成される。このように構成したことにより、図6に示すように、ステイ4がユーザの視界Sに入ることが少ないので、ユーザに解放感を与えることができる。このように、風防装置1では、ユーザの視線をステイ4の上端より上にあるようにすることができる。

【0027】

また、スクリーン3は、側面視における幅Dが、車両2の前輪45の中心軸と、軸25との距離で表されるフロントフォーク幅Tと交差するように設置される。すなわち、スクリーン3は、上端が、後方へ傾いて軸25より車両2後方へ突出し、下端が、フロントフォーク幅T内に配置される。このようにスクリーン3を配置することにより、スクリーン3の重心をバーハンドル7の回転中心、すなわち軸25に近づけることができる。

20

【0028】

図7に示すように、ハンドルカバー6は、正面にヘッドランプ用開口50が形成されており、左右両側にバーハンドル7のグリップ部26が突出するバーハンドル用開口51が形成されている。また、図8に示すようにハンドルカバー6の後面には、中央にメータパネル用開口52が形成され、バーハンドル用開口51の周囲にスイッチ用開口53が設けられている。前記メータパネル用開口52の前方側には、表面を隆起させて形成したバイザー54が設けられている。このハンドルカバー6は、門字状に形成された上カバー6A、上カバー6Aの下部開口を塞ぐように形成された下カバー6Bとにより構成され、接続手段、例えば、ビス、爪による嵌合などにより一体化される。ハンドルカバー6は、軸25を中心として車両2の前頭部に、前記ステイ4と共に取付部27に固定される。これにより、ステイ4をバーハンドル7に固定する取付部27は、ハンドルカバー6により外部から視認できないように構成される。

30

【0029】

次に、上記のように構成した風防装置1の取り付け方法について図9～図14を参照して説明する。尚、風防装置1は、略左右対称であるので、説明の便宜上、車両2の進行方向に対し左側を図示して説明を行い、右側については説明を省略する。

40

【0030】

まず、ヘッドランプ5、ハンドルカバー6、バーハンドル7、メータパネルが設置された車両2の前頭部に、サイドミラー9を取り付ける。サイドミラー9は、バーハンドル7に立設された雌ネジ部55にワッシャW、ミラー取付用ステイ18、カラーCの順に挿入し、サイドミラー9に形成された雄ネジ56を雌ネジ部に螺合して、バーハンドル7に取り付ける。

【0031】

次いで、ステイ4をバーハンドル7及びミラー取付用ステイ18に固定する（図10）。ステイ4は、バーハンドル7に設けられた取付部27に対し、カラーC、ステイ4の固定部16、フランジカラーFCの順に配置し、フランジカラーFC側からボルトBを挿入して、取付部

50

27のフランジ31に設けたナットNに螺合させて、ハンドルカバー6と共にバーハンドル7に固定する。このとき、ステイ4は、固定部16以外の部分では、ハンドルカバー6と隙間を形成して取り付けられる。

【0032】

また、ステイ4は、サイドミラー9と共にバーハンドル7に取り付けたミラー取付用ステイ18の内側にカラーCを挟んで重ね、ミラー取付用ステイ18側からボルトBを挿入し、ステイ4側においてボルトBをナットNと螺合させて、ミラー取付用ステイ18に固定する。

【0033】

続いて、スクリーン3の取り付け方法について、図11からの図を参照して説明する。まず、図11に示すように、スクリーン3には、ステイ4の支持部15のボルト挿通穴40に対応して設けられたボルト穴60に、予めグロメット11をそれぞれ取り付けておく。

10

【0034】

次いで、スクリーン3の両側下部にナックルガード8を取り付ける。ナックルガード8は、図12に示すように、上端に設けられた当接部分17に形成したナット用穴61に、組付けナット62を挿入する。次いで、図13に示すように、スクリーン3の後面側からナックルガード8の当接部分17をスクリーン3に当接させ、スクリーン3の前面側からワッシャWを介して、ボルトBを挿入して、ナックルガード8の当接部分17に設けた組付けナット62に螺合することにより取り付ける。

【0035】

そして、スクリーン3は、上記のようにナックルガード8を取り付けた状態で、車両2の前頭部に取り付ける。まず、スクリーン3は、バーハンドル7に取り付けたステイ4の支持部15に対し車両2の後方側に配置し、支持部15との間にカラーC、ワッシャWを挟んで、支持部15側からボルトBを挿入し、スクリーン3の後面側において、ボルトBの先端にワッシャWを挿入しナットNを螺合させて固定する。また、ナックルガード8は、下端においてステイ4の固定部16に上側から重なり、下方からカラーCを介してボルトBを挿通し、ナックルガード8側からボルトBの先端にワッシャWを挿入して、ナットNを螺合することによりステイ4に固定する。さらに、ナックルガード8は連結用穴19においてミラー用取付ステイ18に上側からカラーCを挟んで重なり、上側からボルトBを挿通し、ミラー用取付ステイ18側からボルトBの先端にワッシャWを挿入して、ナットNを螺合することにより、ミラー用取付ステイ18に固定する。以上のようにして、風防装置1では、スクリーン3をハンドルカバー6の上方に設置することができる。尚、ステイ4は、支持部15と固定部16との接続部分としての屈曲部4aにおいて、裏面に突状が形成せずに変形しやすい構成とした。これにより、ステイ4に過大な荷重が生じた場合、屈曲部が曲げ変形することにより荷重を吸収することができる。

20

30

【0036】

次に、上記のように構成した風防装置1の作用について説明する。本実施形態に係る風防装置1は、スクリーン3をヘッドランプ5とメータパネルとを備えたハンドルカバー6の上方に配置し、該スクリーン3を前面側からステイ4により支持することとした。従って、スクリーン3の後面側、すなわちシート10に着座したユーザ側にステイ4が突出することがない。これにより、風防装置1では、スクリーン3の後面側のスペースを広くすることができ、ユーザに解放感を与えることができる。また、スクリーン3の後面側に凸となるステイ4がないので、スクリーン3の後面側が解放的になり、バーハンドル7とスクリーン3との間に配置される機器との干渉が少なくできて取付位置の自由度が増し、さらに停車時に、そこに簡易的に物を置くスペースを広く取ることができる。

40

【0037】

ステイ4は、支持部15において、弾性部材たるグロメット11を介してスクリーン3を支持することにより、支持部15とスクリーン3との間に隙間A1を形成した。これにより、風防装置1では、スクリーン3で受けた空気の一部を円滑にスクリーン3の左右方向へ逃すことができる。また、グロメット11は、弾性を有するゴム材料からなるゴムダンパーとすることにより、エンジン振動の多いV型エンジンを持つ車両の場合でも、ステイ4とウィン

50

ドシールドとがゴムダンパーを介して接触することとしたので、ノイズの発生を抑制することができる。

【0038】

さらに、ステイ4は、ハンドルカバー6の上面とスクリーン3の下端との間に隙間A2を形成してスクリーン3を支持するように構成した。これにより車両2の走行時において、スクリーン3前面で受けた空気をハンドルカバー6の上面とスクリーン3の下端との間の隙間A2から逃すことができる。これにより、風防装置1では、スクリーン3前後における圧力差を小さくすることができる。

【0039】

また、ステイ4は、支持部15のほぼ全長に亘って前方へ凸となるリブ35を形成し、スクリーン3で受けた空気をリブ35に沿ってスクリーン3の上方へ押し上げることができる。また、ステイ4は支持部15が上方へいくに従ってV字状に外側へ傾くように固定される。これにより、風防装置1はスクリーン3で受けた空気の多くを車両2の上方へ逃すことにより、多くの風がユーザの頭を越えるようにすることができ、快適性を向上することができる。

10

【0040】

また、ステイ4は、支持部15の上端の位置がスクリーン3の高さの半分以下となるように形成される。従って、風防装置1では、スクリーン3の前面側にステイ4を配置しているが、支持部15がユーザの視界に入ることが少ないので、ユーザに解放感を与え、快適性を向上することができる。さらに、スクリーン3の前面に、上方への空気の流れが強く得られ、スクリーン3の後方への空気の流れが上方に押し上げられるので、ユーザのウィンドシールド効果を高めることができる。

20

【0041】

また、スクリーン3は、スクリーン3の上端が、後方へ傾いて軸25より車両2の後方へ突出し、スクリーン3の下端が、フロントフォーク幅T内に配置される。これにより、スクリーン3の重心をバーハンドル7の回転中心（軸25）に近づけることができる。また、スクリーン3は、上端を後方へ傾けて設置したことにより、スクリーン3で受けた空気を車両2の上方へ逃すことができ、多くの風がユーザの頭を越えるようにすることができ、快適性を向上することができる。

【0042】

また、ステイ4は樹脂材料により形成される。これにより、従来のようにパイプ状とする必要がなく、断面を非円形状すなわち板形状とすることができ、デザイン性を向上することができる。さらに、ステイ4は、所定方向の荷重に対し、容易に変形し得る形状とすることにより、衝撃を吸収することができる。

30

【0043】

また、サイドミラー9は、ステイ4とは別体のミラー取付用ステイ18に保持されている。そして、ミラー取付用ステイ18は、ステイ4に過大な荷重がはたらいた場合にステイ4との結合が解除され得るように構成した。これにより、ミラー取付用ステイ18は、過大な荷重を受けたステイ4が変形した場合でも、ステイ4との結合を解除し、サイドミラー9が損傷を受けるのを防止することができる。また、ステイ4は、屈曲部4aにおいて変形しやすい構成としたので、ステイ4に荷重が生じた場合、屈曲部4aが曲げ変形することにより荷重を吸収することができる。

40

【0044】

また、ステイ4の他端を固定する取付部27は、バーハンドル7の軸25との接続部分の近傍に、左右一対設けたことにより、バーハンドル7の回転中心にステイ4に取り付けたスクリーン3の重心を近づけることができる。

【0045】

本発明は、本実施形態に限定されるものではなく、本発明の要旨の範囲内で種々の変形実施が可能である。例えば、本実施形態では、ステイは左右一対からなるものについて説明したが、本発明はこれに限らず、例えば、一対のステイの支持部の間に支持部を連結する

50

横架部材を備えることとし、左右一対のステイを一体化することとしてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0046】

【図1】本発明の風防装置の全体構成を示す斜視図である。

【図2】同上、スクリーンの支持構造を示す斜視図であり、(a)正面側から見た図、(b)背面側から見た図である。

【図3】同上、バーハンドルの構成を示す斜視図である。

【図4】同上、ステイに保持したスクリーンの断面図である。

【図5】同上、スクリーンとバーハンドルとの位置関係を示す分解した状態の正面図である。

10

【図6】同上、車両の側面図である。

【図7】同上、ハンドルカバーの正面図である。

【図8】同上、ハンドルカバーの背面図である。

【図9】同上、風防装置の取り付け状態を示す斜視図である。

【図10】同上、風防装置の取り付け状態を示す斜視図である。

【図11】同上、風防装置の取り付け状態を示す斜視図である。

【図12】同上、風防装置の取り付け状態を示す斜視図である。

【図13】同上、風防装置の取り付け状態を示す斜視図である。

【図14】同上、風防装置の取り付け状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

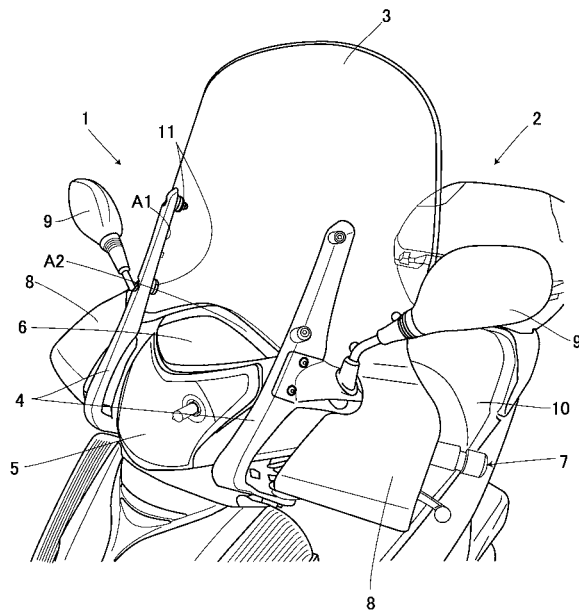
20

【0047】

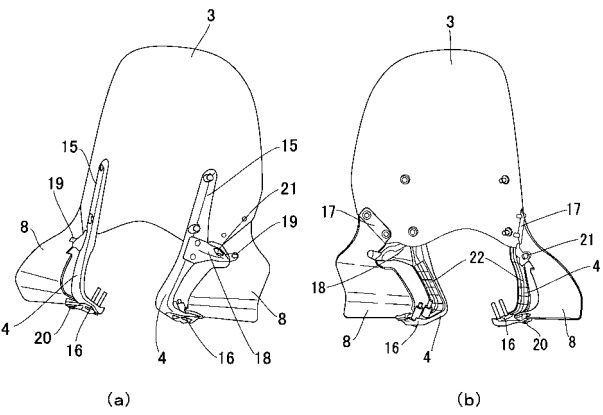
- 1 風防装置
- 2 車両（鞍乗り型車両）
- 3 スクリーン
- 4 ステイ
- 7 バーハンドル
- 11 グロメット（弾性部材）
- 15 支持部
- 16 固定部
- A1 隙間

30

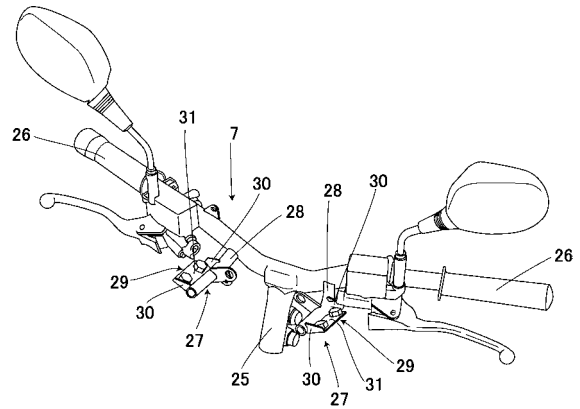
【図 1】



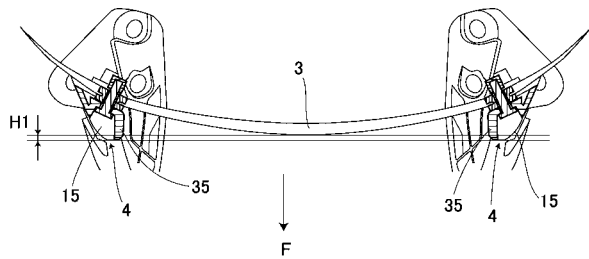
【図 2】



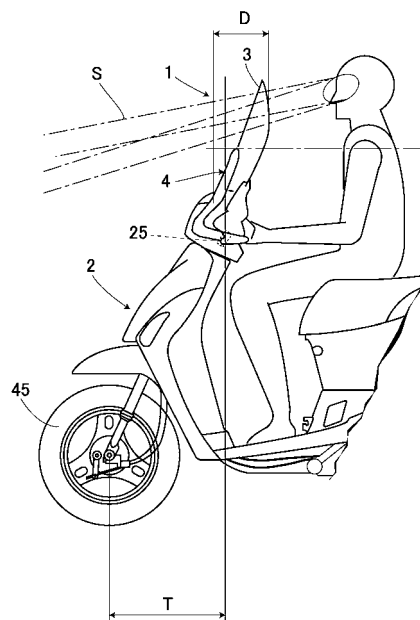
【図 3】



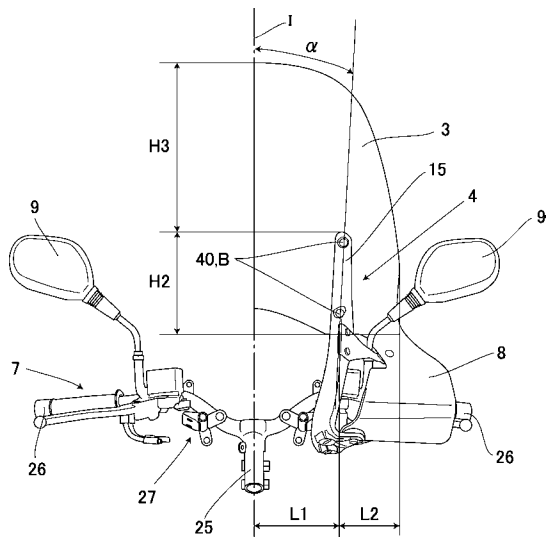
【図 4】



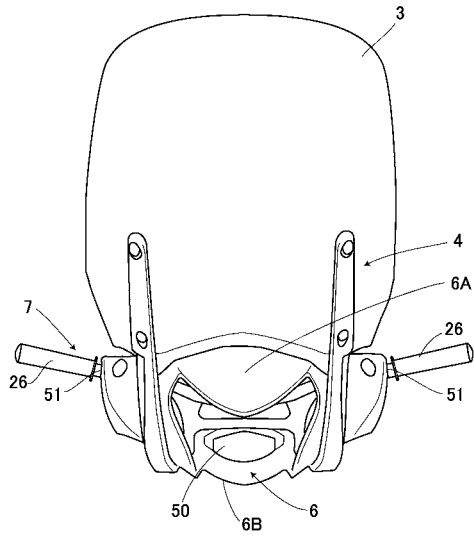
【図 6】



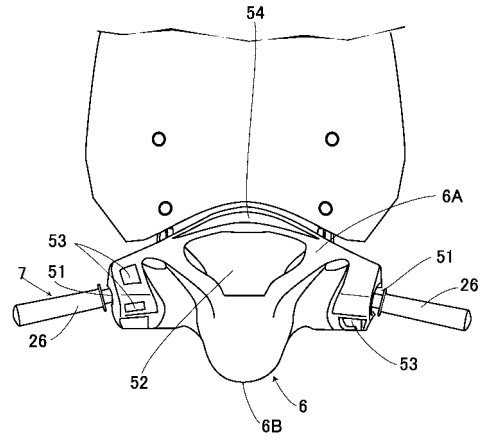
【図 5】



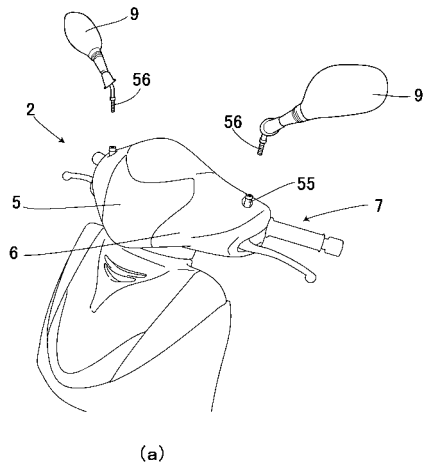
【図 7】



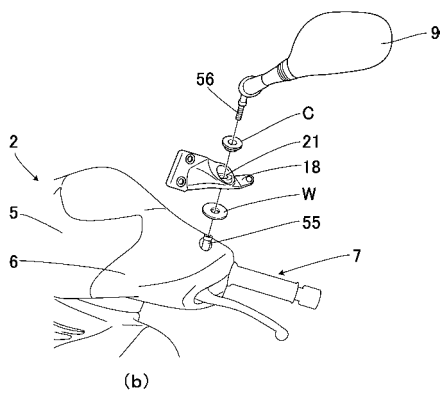
【図 8】



【図 9】

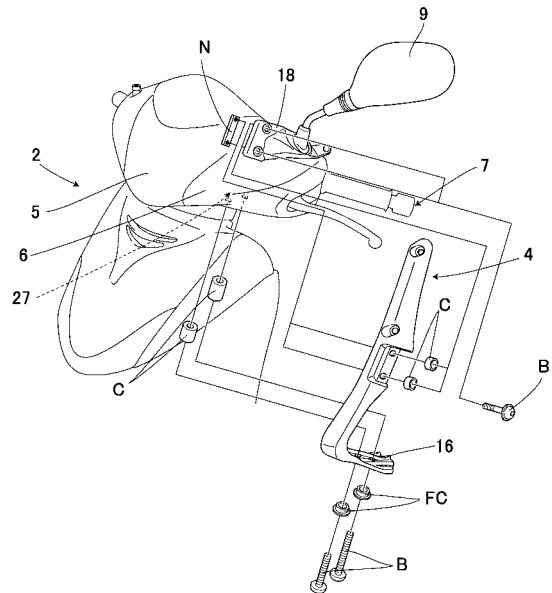


(a)

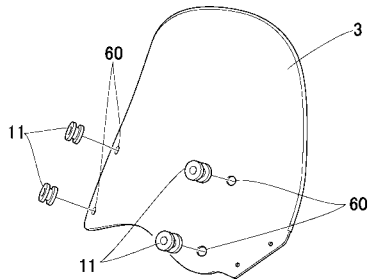


(b)

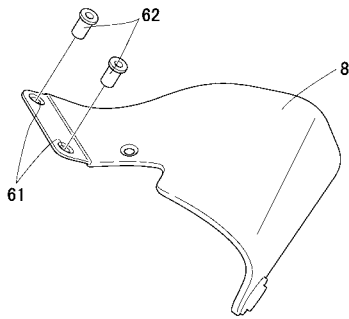
【図 10】



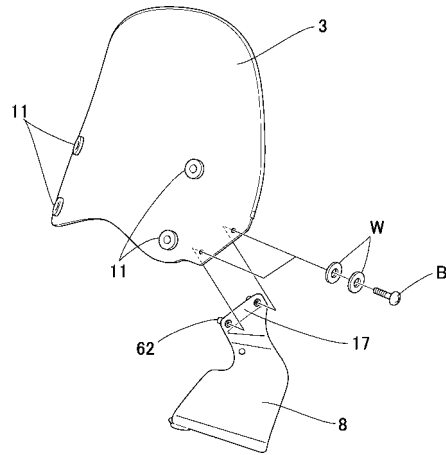
【図 1 1】



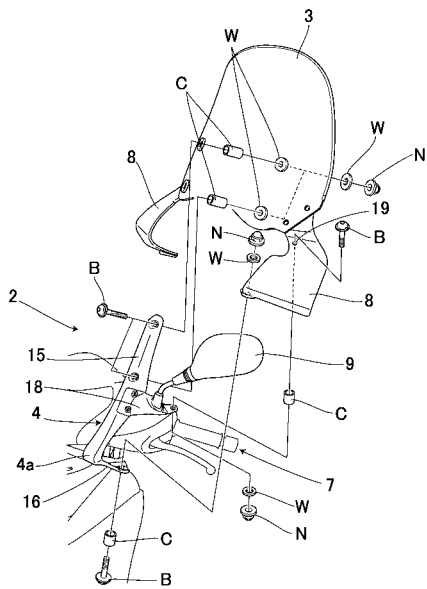
【図 1 2】



【図 1 3】



【図 1 4】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開昭59-162379 (JP, U)
実開昭57-195989 (JP, U)
実開昭58-015587 (JP, U)
特開平08-268365 (JP, A)
実開昭59-125495 (JP, U)
実開昭58-093583 (JP, U)
特開平08-258771 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B62J 17/04